

重要取組シート

教育委員会事務局 (様式 4)

教育センター 能力開発課

学校教育部 教育課程課

取組項目	総合的な学力の育成（学ぶことを楽しみ、自ら学ぶ子どもの育成）
現状・課題	【現状】 ○本市では、学習指導要領で示された資質・能力の内容をふまえ、学力を総合的な学力（①知識・技能、②思考力・判断力・表現力等、③学びに向かう力・人間性等）として捉え、その向上をめざしている。 ➤ 総合的な学力を図る指標のひとつとして、全国学力・学習状況調査における国語、算数・数学を合わせた正答率の割合を KPI としており、全国平均を 100 とした場合、令和 7 年度に小学校 6 年生で 103、中学校 3 年生で 100 を目標としている。令和 5 年度は、小学校 6 年生は 97.9、中学校 3 年生は 96.9 である。 ➤ 全国学力・学習状況調査の正答率が 40%未満の児童生徒の割合は、全国平均を 100 とした場合、令和 5 年度は小学校 6 年生の国語は 118.9、算数は 107.7、中学校 3 年生の国語は 126.9、数学は 105.7 である。 【課題】 ➤ 令和 5 年度の全国学力・学習状況調査の結果では、小中学校ともに全国平均を下回っている。 ➤ 全国学力・学習調査における学力低位層（正答率が 40%未満の児童生徒）の割合が全国と比較すると高い。 ➤ 教科学力だけでなく、学習意欲などの非認知能力についても育成する必要がある。
取組の内容	○個々の子どもたちの総合的な学力の向上に向け、教育データの利活用を充実させることで EBPM（証拠に基づく政策立案）の観点から実施する。 ○令和 6 年度は昨年度明らかにした各種研究の効果的な取組を周知実践することで、教員の知識・経験に基づく指導力をより確かなものにし、授業改善に生かす各種調査等のデータを活用した取組を行う。 ➤ 子どもたちの学習意欲を高め、自ら学びをすすめるために、子どもの学び方を示した「学びのコンパス」（探究的な学びの視点等を含めた授業モデル「探究×ICT」）を活用した授業改善を行い、子ども観、学力観の転換を図る。また、総合的な学力向上（子どもの学び）研究員加配を小学校 1 名、中学校 1 名配置し、「学びのコンパス」に基づく授業実践を広く周知し、学校への浸透を図る。 ➤ 「堺 STEAM ブック」の活用を促進し、探究的な学びの充実を図る。 ※STEAM・・・ Science、Technology、Engineering、Arts、Mathematics の頭文字をとった概念のこと ➤ 読解力を育む授業実践を推進するために昨年度までのモデル校実証（RST の活用）で得られた知見を集約し学校に発信する。 ※RST…読解力（文書を正確に読む力等）を図るリーディングスキルテスト ➤ 個々の子どもの学力の伸びの把握と効果的な取組の実践に向けて、IRT（項目反応理論の手法）を活用した堺市学力状況調査を小学校 4 年生～中学校 2 年生で実施する。 ➤ 集団の状況に着目する全国学力・学習状況調査、大阪府小学生すくすくウォッチ、大阪府中学生チャレンジテスト、堺市児童生徒学習・生活状況調査の各種データを分析し、学力低位層の減少に向けて効果的な取組を発信する。

		▶ 学校教育目標に照らして、取組の評価・改善等について記載する検証改善分析シートをもとに、各学校が各種調査結果から学校教育目標等の達成に向けて状況を把握し改善を進める。教育課程連絡協議会等、機会を捉えてカリキュラムマネジメントの具体的な進め方や好事例の発信、共有を行う。
スケジュール	前期 (～7月)	☐ 全国学力・学習状況調査（小 6、中 3）実施（4 月） ☐ 大阪府小学生すくすくウォッチ（小 5、小 6）実施（4 月） ☐ 「学びのコンパス」を、校内研修を含む各種研修において周知し、活用を推進する。（4 月～3 月） ☐ 「堺 STEAM ブック」を、校内研修を含む各種研修において周知し、活用を推進する。（4 月～3 月） ☐ IRT を活用した堺市学力・学習状況調査（小 4～中 2）実施（5 月～6 月） ☐ 教育課程連絡協議会におけるカリキュラムマネジメントの進め方の発信（5 月～6 月） ☐ ICT 学習支援コンテンツの活用推進（5 月～3 月） ☐ RST の活用で得られた知見を発信（6 月～3 月） ☐ 全国学力・学習状況調査結果返却及び分析（7 月） ☐ 大阪府小学生すくすくウォッチ結果返却及び分析（7 月） ☐ 各種学力調査等返却ごとに、小中学校で自校の学力等の分析を実施し、検証改善分析シートを作成・更新（7 月～3 月） ☐ 小中学校で自校の学力分析に基づいた取組の実施（7 月～3 月） ☐ 教育課程説明会の実施（教科横断的な視点での指導計画等）（7 月～8 月）
	中期 (～11月)	☐ 総合的な学力向上に関する研修会実施（8 月） ☐ 堺市児童生徒学習・生活状況調査（小 3～中 3）実施（9 月） ☐ 大阪府中学生チャレンジテスト（中 3）の実施（9 月） ☐ IRT を活用した堺市学力・学習状況調査の結果返却及び分析（10 月） ☐ 大阪府中学生チャレンジテスト（中 3）の結果返却及び分析（10 月） ☐ 総合学力プロフィールを小中学校へ提供（11 月～12 月）
	後期 (～3月)	☐ 小中学校で個人懇談時等に、総合学力プロフィールを活用（12 月） ☐ 大阪府中学生チャレンジテスト（中 1、2）の実施（1 月） ☐ 大阪府中学生チャレンジテスト（中 1、2）の結果返却及び分析・取組の発信（2 月） ☐ 教育課程連絡協議会におけるカリキュラムマネジメントについての好事例の発信・共有（2 月）
	次年度以降	☐ 取組の継続 ☐ データの一元管理の制度設計

進捗の状況	前期 (～7月)	☐ 全国学力・学習状況調査（小 6、中 3）実施（4 月） ☐ 大阪府小学生すくすくウォッチ（小 5、小 6）実施（4 月） ☐ 「学びのコンパス」・「堺 STEAMブック」説明会を実施（5 月） ☐ 「学びのコンパス」・「堺 STEAMブック」に基づく、校内研修を含む各種研修を実施（5 月～） ☐ IRT を活用した堺市学力・学習状況調査（小 4～中 2）実施（5 月～6 月） ☐ 教育課程連絡協議会（カリキュラムマネジメントの進め方等について）の実施（5 月～6 月） ☐ ICT 学習支援コンテンツの活用推進（活用促進ツールの作成）（5 月） ☐ RST の活用で得られた知見を発信（リーフレットに整理）（7 月） ☐ 全国学力・学習状況調査結果返却及び分析（7 月） ☐ 大阪府小学生すくすくウォッチ結果返却及び分析（7 月） ☐ 各種学力調査等返却ごとに、小中学校で自校の学力等の分析を実施し、検証改善分析シートを作成・更新（7 月～） ☐ 教課等教育課程説明会（教科横断的な視点での指導計画等について）の実施（7 月～8 月）		
	中期 (～11月)	☐ ICT 学習支援コンテンツの活用推進（活用促進ツールを配付）（8 月） ☐ 総合的な学力向上に関する研修会実施（8 月） ☐ 小中学校で自校の学力分析に基づいた取組の実施（8 月～3 月） ☐ 大阪府中学生チャレンジテスト（中 3）の実施（9 月） ☐ 堺市児童生徒学習・生活状況調査（小 3～中 3）実施（9 月） ☐ 総合学カプロフィールを小中学校へ提供（10 月） ☐ IRT を活用した堺市学力・学習状況調査の結果返却及び分析（10 月） ☐ RST の活用で得られた知見を発信（リーフレットの説明・配付）（11 月） ☐ 大阪府中学生チャレンジテスト（中 3）の結果返却及び分析（11 月）		
	後期 (～3月)	☐ 小中学校で個人懇談時等に、総合学カプロフィールを活用（12 月） ☐ 大阪府中学生チャレンジテスト（中 1、2）の実施（1 月） ☐ 教育課程連絡協議会におけるカリキュラムマネジメントについての好事例の発信・共有（2 月） ☐ 大阪府中学生チャレンジテスト（中 1、2）の結果返却及び分析・各種調査データに基づく効果的な取組の発信（3 月）		
2025 堺市基本計画	該当する 施策	3-（2） 子どもの可能性を伸ばし未来を切り拓く力を育む教育の推進		
	寄与する KPI	学力調査の堺市の平均値（全国を 100 とした場合） [現状値 小 6 100.5 中 3 95.8 (2019 年度) 小 6 97.9 中 3 96.9 (2023 年度)]		目標値（2025 年度） 小 6 103.0 中 3 100.0
未来都市計画 堺市SDGs	最も貢献する SDGsのゴール	ゴール番号 4	質の高い教育をみんなに	
	寄与する KPI	学力調査の堺市の平均値（全国を 100 とした場合） [現状値 小 6 100.5 中 3 95.8 (2019 年度) 小 6 97.9 中 3 96.9 (2023 年度)]		目標値（2025 年度） 小 6 103.0 中 3 100.0